

AI診断令和で身近に

広島大病院の木内良明院長に聞く



木内・よしあき
徳島市生まれ。8
徳大医学部卒。06年
大学院教授。専門
。広島大病院副
歴任し、18年4月
職。
科を現

38、大根な
3年、は長か

は、患者の健康を共有でき
る仕組みが不可欠です。病院が
連携して治療成績を集約して分
析し、よりよい治療法を探る営
みも大切になります。

トのように、どんな病気も扱う
大きな総合病院がいくつも存在
します。医師の数も限られる今
後は、病院ごとの役割を分担し
ていく時代になります。それに
は、患者の健康を共有でき
る仕組みが不可欠です。病院が
連携して治療成績を集約して分
析し、よりよい治療法を探る営
みも大切になります。

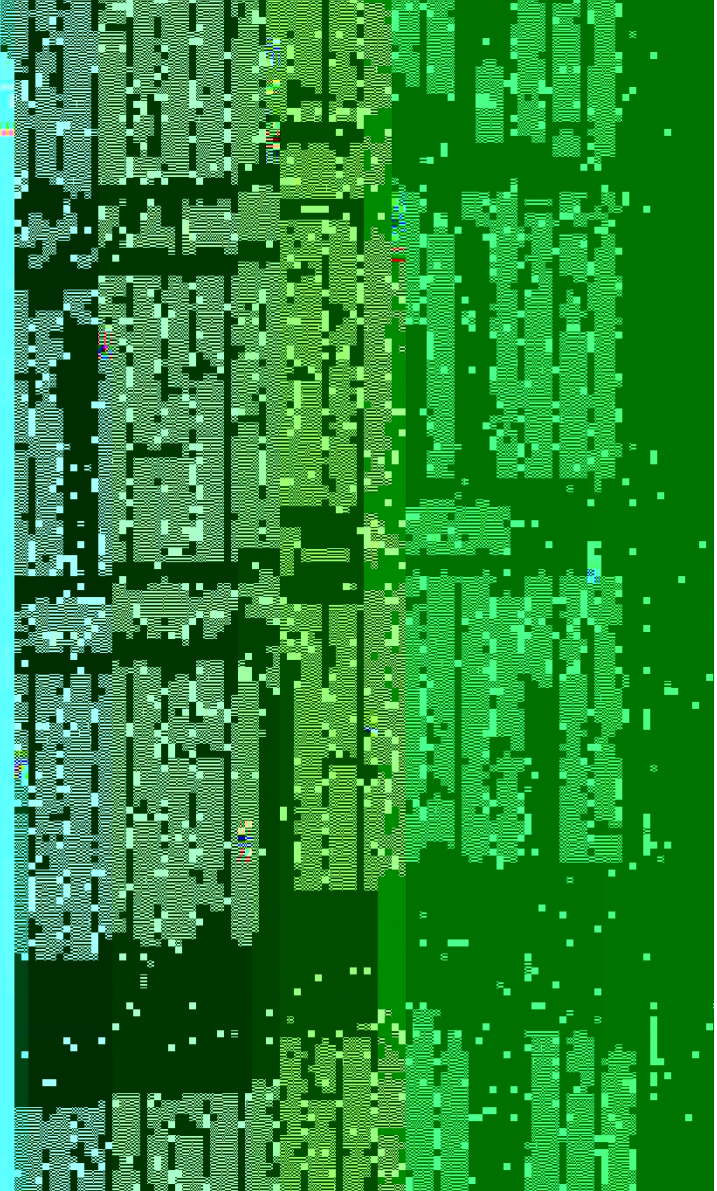
「病院はこう変わります」が、
どんな商品でもそろそろ「ラノ

ん出てきますので、うまく活用
してもらいたい。

眼底写真1枚から、年齢や性
から、血圧や血糖値までをA
が読み取る技術があります。
「生活習慣病は、新薬開発の

治療法がいいところがこの薬が
効きそう」という、オーダーメ
ードの医療に向かっていきそつ
です。今、企業は「AI」とい

なか治療されなくて、本当に悪
くなつてから来院される人をよ
く見掛けます。生活改善をサホ
ートするための仕組みは、だ
ん出てきますので、うまく活用
してもらいたい。



中国新聞の許諾を得ています
掲載日時 2019年5月1日